

当院の婦人科腹腔鏡手術

- (1) 腹腔鏡手術を希望される患者さんへ
- (2) 当院における腹腔鏡手術件数
- (3) 当院で行っている主な術式と適応疾患



(1) 腹腔鏡手術を希望される患者さんへ

近年、医療におけるさまざまな分野で「低侵襲手術」の技術が進歩しております。婦人科領域でも子宮鏡手術や腹腔鏡手術など、多くの低侵襲手術が行われています。

当院でも希望される患者さんには、積極的に婦人科腹腔鏡手術を導入しています。

婦人科の腹腔鏡手術では、主に臍（へそ）からカメラ（10mm もしくは 5mm）を挿入して、お腹の中を詳細に観察しながら手術を行います。下腹部に数カ所（当院の手術ではほとんどの場合で3カ所）に 5～14mm の切開を加え、そこから手術器具を挿入して手術を行います。

患者さんの創部の一例です（術後1カ月での撮影）。
腹腔鏡下子宮全摘の場合、臍から 10mm のカメラを挿入するので、15mm 程度の創部になります。下腹部の左右にそれぞれ 8mm、正中に 15mm 程度の創部となります。



腹腔鏡手術のメリットとして、傷が小さく目立ちにくいいため、美容的に開腹手術より優れていることが挙げられます。また傷が小さいと術後の痛みが少なく回復が早いため、術後 4～5 日程度で退院することができ、早期の社会復帰も可能です。手術の後で傷からの感染がおこりにくく、お腹の中の臓器と傷の内側がひっついてしまう癒着という合併症も、開腹手術より生じにくいメリットがあります。

しかし、腹腔鏡手術は開腹手術よりも技術的に難しい点も多いため、決して万能な手術ではありません。合併症も少なからず存在します。（一概に出血や多臓器損傷などの合併症がおこりやすい、というわけではありません。）

肥満の方、手術既往がある方、生理痛が強く内膜症が疑われる方では手術の難易度が上がるため、合併症が生じないように慎重な対応が必要です。

当科では「より安全で、確実な、低侵襲手術」を目標に、腹腔鏡手術に取り組んでおります。手術に際して、担当医から十分な説明を受けていただくから、実施しております。現在のところ、手術申し込みから手術予約まで約 1～2 カ月程度の期間が必要です。また、手術までの間に腫瘍の縮小や貧血の改善を目的としたホルモン治療が 2～3 カ月必要となるケースもあります。手術を希望される患者さんは、早めの来院をお勧めします。

手術をご検討中の方は、一度、当院外来でご相談ください。

外来の担当医は[こちら](#)。



(2) 当院における腹腔鏡手術件数

術 式	2013 年	2014 年
腹腔鏡下膣式子宮全摘出	17	39
腹腔鏡下子宮筋腫核出	6	11
腹腔鏡下子宮付属器摘出	6	27
腹腔鏡下子宮付属器腫瘍摘出	10	33
腹腔鏡下子宮外妊娠手術	2	5
腹腔鏡下子宮内膜症病巣除去	3	3
合 計	44	118

(2つ以上の手術を行った場合は、主に行った手術でカウント。)

(3) 当院で行っている主な術式と適応疾患

1. 腹腔鏡下子宮全摘出術 (子宮筋腫、子宮腺筋症など)
2. 腹腔鏡下子宮筋腫核出術 (子宮筋腫)
3. 腹腔鏡下卵巣嚢腫核出術 (卵巣腫瘍)
4. 腹腔鏡下子宮内膜症手術 (子宮内膜症)
5. 腹腔鏡下卵巣多孔術 (多嚢胞性卵巣症候群、不妊症)
6. 腹腔鏡下卵管切除術、腹腔鏡下卵管形成術 (子宮外妊娠)